# 令和６年度　学校評価報告書（実施結果）

| 視点 | | ４年間の目標<br>（令和６年度策定） | １年間の目標 | 取組の内容 | | 校内評価 | | 学校関係者評価 | 総合評価（３月 21 日実施） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 具体的な方策 | 評価の観点 | 達成状況 | 課題・改善方策等 | （３月 10 日実施） | 成果と課題 | 改善方策等 |
| 1 | 教育課程<br>学習指導 | ・生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養を目指し、多様な学習活動において深い学びを実現していく。 | ・生徒が「見方・考え方」を自在に働かせられるような、教師の専門性の発揮と不断の授業改善を実施する。<br>・ＫＵ（総合的な探究の時間）において、各教科で学んだ見方・考え方、身に付けた資質・能力を横断的・総合的に活用して、実社会や実生活における課題解決に向けて探究する。 | ①STEAM 教育研究を推進していく中で、校内授業研究テーマを設定し、テーマに沿った学習活動を実施する。<br><br>②-1 深い探究活動を実現するため生徒のテーマ設定に関する学習活動の内容を再構築する。<br>②-2 例えば学年を跨いで生徒に関われるような体制を構築するなど、学習活動の在り方を抜本的に見直す。 | ①テーマを踏まえた学習活動を行い、授業公開や研究授業などを実施することができたか。生徒による授業評価「項目６」及び独自項目が 9 割以上か。<br>②学習活動の内容を再構成することができたか。また教師がこれまで以上にＫＵにおいて生徒に関われる体制を築くことができたか。 | ①主に１，２年生の全科目で共通の問いとして「愛情」を取り上げ、各教科で実施。多面的な思考を養い、陶冶できることが明らかになった。第２回生徒による授業評価項目「６」「９」「10」の肯定的割合はそれぞれ91%、81%、80%。<br>②教師による授業見学の推奨、ＫＵの指導体制を抜本的に変更した。 | ①教科横断的な取組により、生徒の多面的な思考が育まれることが明らかになったため、次年度はＫＵの指導に着目し、探究を深められるアプローチを検討していく。次年度以降も実社会につながる問いを授業に取り入れ、主体的、対話的で深い学びにつながる授業改善に資する取組を行う。<br>②授業見学の推奨を引き続き行う。 | ＫＵを中心とした探究の学びの充実が図られていると思う。各教科での取組状況はわからないが、ＫＵと各教科の連携をしっかりと図っていってほしい。<br>探究の時間で様々な課題を主体的に解決していこうとする姿が見られた。 | 各教科で学んだ見方・考え方、身に付けた資質・能力を横断的・総合的に活用して、実社会や実生活における課題解決に向けて探究することができた。 | 教科横断的な取組を行うために、各教科・科目の見方・考え方の<br>情報共有の機会をつくる。<br>深い探究活動を可能にする物的環境整備を積極的に行う。 |
| 2 | （幼児・児童・）生徒指導・支援 | ・生徒会活動、部活動の充実をさらに図り、リーダーシップと協働し支える力を育む。<br>・学校行事や生徒会活動において、生徒一人ひとりが高い目標を持ち、主体的に参画していけるよう支援を行う。<br>・生徒一人ひとりに応じた支援を行う。 | ・学校行事や部活動に参画する経験が、生徒の主体性や創造性、社会性を高めることを意識させる。<br>・様々な場面での活動を通して、生徒の主体的な活動を支援する。<br><br>・生徒の状況を把握、共有し、必要な支援を組織的に行う。 | ・所属する集団の中で自身の役割が何かを自覚させることで、主体的な行動を促す。<br>・生徒会や委員会など主として運営する生徒と教職員の連携を密にし、行事が成功するように集団を導く力が身につくように支援する。<br><br>・生徒一人ひとりの心の健康についても、心のアンケート等を利用して働きかけを行い、必要に応じてＳＣ・ＳＳＷ等とも連携して学校全体で見守る体制づくりをする。 | ・学校生活アンケートで「学校行事におけるクラスのまとまり」及び「部活動に満足している」の肯定項目が８割以上か。<br>・学校生活アンケート「体育祭」「光陵祭」「学芸音楽祭」の肯定項目が８割以上か。<br>・生徒の状況について、ＳＣ・ＳＳＷを含め情報共有が図れたか。 | ・学校生活アンケートで「学校行事におけるクラスのまとまり」及び「部活動に満足している」の肯定項目が８割以上である。<br>・学校生活アンケート「体育祭」「光陵祭」「学芸音楽祭」の肯定項目が８割以上である。<br>・「サポートドック」を通して、生徒が抱える問題を早期に、組織的に把握するシステムが整いつつある。<br>ＳＣ、ＳＳＷを必要としている生徒がサポートドックをきっかけに相談につながるようになった。 | ・両項目について、行程項目が８割以上を継続できるように、生徒の主体的な活動になるように支援していく。<br>・三大行事すべてで肯定項目８割以上を達成できた。生徒の考えを反映しながら行事の運営ができるように、担当から学校全体へ連絡調整を円滑に行えるようにする。<br>・「サポートドック」に頼ることなく、日常から生徒の話を聞き、相談できる信頼関係の構築が望まれる。困り感を持つ生徒への対応について職員研修等があるとよい。 | 「自発的な生徒の活動を支援」に向けて充実した学校行事が展開されていると思う。肯定的に捉えられていない生徒への支援も丁寧にお願いしたい。 | 様々な場面での活動を通して、生徒の主体的な活動を支援することができた。<br>生徒の状況を把握、共有し、必要な支援を組織的に行うことができた。 | 引き続き生徒の活動が活発に行われるように行事や部活動を充実させる。<br>ケース会議の有用な利用ができるように、ケース会議のあり方を教員間で共有する。 |
| 3 | 進路指導・支援 | ・高大接続を見据えて、総合的な探究の時間をはじめとした教育活動を展開し、生徒による将来の自己の在り方生き方の探究を支援する。 | ・生徒一人ひとりに高い目標を意識させ、最も志望する進路が実現できるよう支援する。<br>・生徒が将来の自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択できるよう、進路ガイダンスを充実させる。 | ①-1 総合的な探究の時間をはじめとした各教科・科目における教育活動において生徒のキャリア形成につながるよう、キャリア教育、ガイダンス機能の充実を図る。<br>①-2　生徒が最も希望する進路を実現することができるように、生徒・保護者対象のキャリアガイダンスをはじめとした各種ガイダンスや、夏期講習等の学力向上に向けた取組をさらに充実させる。 | ①-1 魅力と特色アンケート「キャリア教育を受けたことにより、自分が成長できたと思うか」の肯定項目が８割以上か。<br><br>①-2　キャリアガイダンスや夏期講習等、生徒のキャリア形成や学力向上等を目的とした取組が、多面的に行われたか。<br><br>①-3　学校設定科目「教職基礎」「教職基礎演 | ①-1　魅力と特色アンケート「A-2:キャリア教育により、中学生の時よりも社会的・職業的自立のために必要な能力が身に付いたと思いますか」の肯定項目解答は 91.7%であった。<br>①-2　夏期講習や勉強合宿、キャリアガイダンスの実施を通し、生徒のキャリア形成や学力向上を図った。 | ①-1　引き続き、さらに多くの生徒が自らの将来について主体的に探究することができるように、キャリア教育を推進していく。<br>①-2　各種講習やガイダンスの内容をさらに充実させ、生徒のキャリア形成や学力向上を図っていく。<br>①-3　引き続き、県立総合教育センターや横浜国立大学と連携しながら、教職に関わる | 丁寧な進路指導・支援が行われていると思う。教職に向けた支援については県内の学校関係者が注目しているところである。<br>横浜国立大学との連携を密にするなどして、充実した学びとなることを願う。 | ①-1 と 2<br>組織的なキャリア教育を展開し、生徒の進路実現に綱が得ることができた。<br>①-3<br>「教職基礎」「教職基礎演習」の内容を拡充し、外部組織との連携を強めるとともに、受講者の進路実現につなげることができた。 | ①-1 と 2<br>引き続き生徒が最も希望する進路を実現することができるように、多様なキャリア教育を推進していく。<br>①-3<br>「教職基礎」「教職基礎演習」の内容をさらに拡充し、受講者の進路実現に向けた体系的 |

| 視点 | | ４年間の目標<br>（令和６年度策定） | １年間の目標 | 取組の内容 | | 校内評価 | | 学校関係者評価 | 総合評価（３月 21 日実施） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 具体的な方策 | 評価の観点 | 達成状況 | 課題・改善方策等 | （３月 10 日実施） | 成果と課題 | 改善方策等 |
| | | | | ①-3　教職を希望する生徒のために学校設定科目「教職基礎」「教職基礎演習」を実施し、教育学部をはじめとした教職に関わる大学への進学を支援する。<br>②-1　生徒の進路実現を図るために、３学年の選択科目の履修指導と時間割の作成を丁寧に行う。<br>②-2　進路実現を図れるよう令和７年度以降入学生の教育課程の更新を進める。 | 習」において、充実した支援を行ったか。<br>②-1　進路実現を踏まえた選択科目の履修指導を行ったか。<br>②-2　各教科から丁寧に意見を吸い上げ、教育課程の更新を進めることができたか。 | ①-3　学校設定科目「教職基礎」を 68 名、「教職基礎演習」を 30 名の生徒が履修し、教職に関する実践的な学びに取り組んだ。<br>②-1　必要な科目を履修させることの共通理解を学年で図った上で、履修指導を行った。自由選択科目について、「音楽Ⅲ」「美術Ⅲ」「フードデザイン」に加え「化学基礎」が開講されることとなった。<br>②-2 教育課程の更新を進めるにあたり、情報Ⅰを設置する学年の検討を全教科で行った。また、地理歴史科・理科において、設置単位数の変更を行うとともに、自由選択科目に「歴史総合」を設置することとした。 | 様々な取組を実施していく。<br>②-1　開講があまりされない科目について、教育課程に設置する必要があるか、検討する必要がある。<br>②-2 令和７年度の入学生の３年の選択科目について、「日本史探究」「世界史探究」を履修すると同時に「歴史総合」を同時に履修するよう指導していきたい。 | | ②-1　生徒の進路実現を支援するために、丁寧な履修指導を行った。今年度開講されなかった「化学基礎」が来年度開講されることとなり、生徒の多様な進路希望に対応し、より充実した学びの機会を提供することができた。<br>②-2　令和７年度以降入学生の教育課程の更新を進め、地理歴史科・理科について単位数の変更や自由選択科目の設置を行った。 | な取り組みができるよう引き続き、改善を図る。<br>②引き続き、生徒の進路実現を図るための工夫を重ねていく。 |
| 4 | 地域等との協働 | ・地域との連携を推進することで、生徒の社会性や協働する力を育む。<br>・学校の魅力と特色を積極的に発信する。<br>・横浜国大学との連携の強化を図る。 | ・近隣学校との交流事業を推進する。<br>・本校の受検を検討している中学生とその保護者に向け、ホームページを活用し、積極的な情報発信に取り組む。<br>・横浜国立大学のリソースを活用し、大学との連携をさらに推進させる。 | ・保土ケ谷支援学校と行事での交流や交流授業等を行い、協働やインクルーシブ教育を実践する。また権太坂小学校の放課後クラブとの交流も引き続き行う。<br>・学校説明会やホームページ等を活用し、本校の教育活動についての情報発信を行う。<br>・横浜国立大学のリソースを活用し、探究活動を充実や授業改善を図る。 | ・参加した生徒が協働や多様性について考えることができたか。<br>・学校説明会等におけるアンケートにおいて「本校の教育活動への理解」等に関する肯定項目が８割以上か。<br>・横浜国立大学との連携を推進できたか。 | ・保土ケ谷支援学校との交流授業を実施し、生徒の多様性を認める態度を養うことができた。<br>・ホームページで行事や部活動の情報発信を行った。すべての会の学校説明会におけるアンケートにおける工程項目が 99%以上であった。<br>・i-ハーベスト発表会で探究活動の成果を発表した。 | ・単発の交流ではなく、継続的な交流をしていく必要がある。<br>・引き続き、生徒の活動がより伝わるように検討していく。<br>・ i-ハーベスト発表会を外部に向けて発信する方法を検討する。 | めざす生徒像「次代を担う心やさしき社会のリーダー」たるためには社会との接点を多く持たせることが肝要だと思う。すでに行われていると思うが、国や自治体、企業等との接点を多く持てるしかけをお願いしたい。<br>今年度は、本校の６年生が探究の授業を参観したり、教員志望の生徒が本校の授業を参観したり、インタビューをしたりと連携・交流が深まった。また、初任者の授業参観も相互に行うことで、他校種への理解が深まった。教員を目指す生徒の育成に向け、近隣校として今後も協力していきたいと考える。 | 地域との連携を推進することで、生徒の社会性や協働する力を育むことができた。<br>学校説明会で 1500 名以上の来場者があった。アンケートにおいて「本校の教育活動への理解」等に関する肯定項目が９割以上であった。 | 保土ケ谷支援学校との交流をよりよいものにしていく。<br>引き続き、本校の教育活動の魅力が中学生・保護者に伝わるように発信していく。 |
| 5 | 学校管理<br>学校運営 | ・学校がめざす姿を共有し、その実現に向けて協働して取り組む組織とする。<br>・生徒が安心して通うことのできる体制を作る。<br>・生徒と向き合う時間を確保するために、教員の働き方改革を推進する。 | ・管理職を含め、職員同士が目的意識を共有し、日常的な情報交換・コミュニケーションを図る。<br>・質の高い授業の実施、教育相談体制の充実、教育施設や防犯体制の拡充を図る。<br>・ペーパーレス化を推進し、校務の効率化を図る。 | ・多様な職員研修を実施し、日常的な情報交換・コミュニケーションの環境づくりに努める。また、生徒の状況把握や職員の連絡体制を充実させる。<br>・ICT の日常的な利活用を推進し、職員の報告・連絡・相談体制の整備及び勤務時間内の会議の徹底を図る。 | ・職員研修の実施回数が 10 回以上か。<br>・職員への情報発信による共有化に努めるとともに、学校から外部への情報発信が推進できたか。<br>・教職員が ICT の日常的な利活用等により、組織的な学校運営と校務の効率化が図られたと実感できたか。 | ・職員研修は、現在のところ計画どおりに実施することができている。<br>・ICT の利活用により、欠席連絡を電話で受けることもほとんどなく、朝の始業前の業務負担減につながった。 | ・引き続き、職員研修を実施し、学校が目指す姿の実現に向け、組織的に取り組む。<br>・ICT の更なる活用をとおして、校務の効率化を推進し、時間外勤務を減らしていく。 | 概ね校内での評価が高く、管理・運営がしっかりとなされているものと思う。目標にある「質の高い授業の実施」についてはどのように評価して、来年度にどうつなげていくのかが課題である。 | 教職員間で学校がめざす姿を共有し、その実現に向けて取り組むことができた。<br>教職員が ICT の日常的な利活用することにより、校務の効率化を図り、負担感を減少させることができた。 | 引き続き、職員研修を実施し、学校が目指す姿の実現に向け、組織的に取り組む。 |